



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／平沢清文
- 副会長／宮沢由己・小口泰史
- 幹事／河西 洋
- 会報・雑誌・広報委員長／佐藤有司

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F
Tel/0266-22-6939・Fax/0266-23-6939・URL:<http://okayarc.org>・E-mail:okayarc@amber.plala.or.jp
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2394 回例会 2008 年（平成 20 年）7 月 22 日（火）

司 会：山岡晴男
点 鐘：平沢清文

斉 唱：我等の生業
ラッキーNo.：No. 16 佐藤有司

会長挨拶

皆さん今日は

先週気象庁から梅雨明け宣言が出されてから、毎日暑い日が続いております体調に十分気をつけて頂きたいと思います。

先日の土曜、日曜と福井県に行ってまいりました。道中大変広い、100 台は駐車出来るかというようなドライブインの駐車場の中を、休む事なく散水しておりこれも大変なことだなあと思い、店員の方のお聞きすると従業員の方が交代で夕方までするとのこと、これをするとならないでは周辺の温度が3度は違うということで先人の知恵を感じた一日でした。

幹事報告

・唐沢政彦ガバナーエレクト事務所開設 松本市高宮東 4-26 TEL 0263-50-8590

委員会報告

社会奉仕委員会 「ダメ。ゼッタイ。」に約 27000 円の寄付が集まりました。ご協力ありがとうございました。

卓 話 「いのちが輝く時」

NPO 法人 いのちと平和の森
副会長 橋本 京子 様



私も経営者ですが、若い頃は経営戦略や決算書ばかり気にしておりました。しかし色々な経験の中から、縁あって働きに来てもらっている社員さん一人一人にも大切な命がある。働き手ではない命を持った一人の人間が集まっている。そしてその人達の人生を幸せにしていくということが経営者の大きな役割であると言うことを、経営者となって 42 年間を通して行き着いた答えです。

会社は皆の幸せの為に存在するのか？ その幸せは何に繋がっているのか？ 究極の

目的はそこにあると思います。

そしてもう一つ大切な事は、会社の価値は存続していく事にあると思います。経営者の最後の大きな仕事は後継者の育成、選択、大切な事をどう伝えるのかだと思います。

また、譲ったその後人生をどう生きるかと言うことも大切だと思います。聖路加国際病院の日野原重明先生や横内祐一郎さんとの出会いによって私は色んな事に気づき、教えて頂きました。

私は今、小・中・高校生を中心に「いのちの出前授業」をさせて頂いています。これは日野原重明先生が私の四賀村の母校の6年生に「いのちの出前授業」をして頂いた折に、参加しており、ここに私の後半の人生を使いたいと思ったのがきっかけとなりました。

今日はどんな風に「いのちの出前授業」をしているか、皆さんに10歳の子供の心に戻って聞いて頂きたいと思います。

まず、校庭で聴診器で木の音を聞きます。木にも命があると実感する時間です。

次に教室で保護者の方にも参加して頂き命の繋がりについて話をします。まず、自分の心臓の音を聞きます。次に友達、心臓の音、お母さんやお父さんの心臓の音を聞きます。自分に両親がいる、両親にも両親がいる、自分達にとっては祖父母となり、その祖父母にも両親おりどンドン遡り、20代遡ると100万人を超えと言います。そして、自分達の命がこれからも繋がっていく事を話します。

また、米・麦・牛や豚・魚にも命があり、人間は沢山の命を頂いて生きている。そして作ってくれた人、運んでくれた人など、沢山のいろいろな人が関わっている。だから人間は色んな事に感謝をする事が大切であると話します。

次に戦争中に私の妹を亡くした時の話をします。生きたいと思っても死んでしまう事もある、だから命を大切にしたい、その大切な自分の命の使い方をどう使いたいのか考えてもらいます。

私達経営者は、誰の為に、何の為にこの命を使うか今一度考えてそして経営者として全うしたその後の人生を集大成を、どう生きるか考えて頂ける時間にして頂ければ嬉しいです。ありがとうございました。

日野原重明さん主宰の「新老人の会」会員が執筆しています

橋本京子 68

日野原重明先生の唱える「新老人の生き方が未来を創る」との信念に驚き、21世紀を生きる子どもたちの未来のために何かをしよう。

「子どもたちに何を伝えるか」というテーマの活動の一つとして、信州支部の横内祐一郎世話人代表の音頭のもとに、会員の田口健さん、上條善清さんと私の4人は、支部会員の皆さんへの応援を受けて、「いのちと平和の尊さを伝える出前授業」を始めました。

現在までに4000人を超える出会いがありました。将来を担う子どもたちの笑顔と、純粋な涙に出会った1年10か月でした。その姿を目の当たりにして、未来の可能性を私たちは確信しました。この事実を暗い話の多い時代だけに、広く皆さんに知っていただきたいと思っています。

聴診器を使っての授業は、校庭の樹木に当てて自然の命の音を聞きます。さらに、自分と友だちや、親子でお互いの心臓の鼓動を聴いて、生きている証拠を共に実感します。命の繋がりを体で感じとっていくのです。

聴診器の登場に大喜びの子どもたち。ドクドクドクという音に驚いている

命の繋がり 伝える出前授業

子どもたちの目は、好奇心でいっぱいです。その後、今、聞いた命の音は、両親を通して、おじいちゃん、おばあちゃん、ご先祖さまからずうっと繋がってきた命の音であって、これからは繋がっていくことを伝えたい。子どもたちは自分の命は自分だけのものではないことに気づきます。

戦争体験の話からは、身近な人が亡くなってしまふ悲しみに涙を流す子どももいて、命の大切さを真剣に考え始めます。

最後にまとめとして、「いのちって何だろう」「自分が今までしてもらってうれしかったこと」「お世話になっている人」に自分ができるとは何かが「をテーマに話し合います。自分の体験を泣きながら一生懸命話す子どもも、熱を出したとき看病してくれたお母さんへの感謝の気持ちを話す子どももさまざまです。そして、自分の命はみんなに守られていることに気づいていきます。

「僕は命が大事なことば知っていました。でも僕の命をどう使うかなんて、9年間考えたこともありませんでした。自分の命をどう使うか、あらためて与えられた自分の命、使命というものを考え直すは、いられない、9歳の子どもの感想文です。」（新老人の会、信州支部会員、産業カウンセラー、「ほほえみの会」主宰）

元気な高齢者の活動を応援するコラムです。日野原重明さんと「新老人の会」の会員が交代で執筆します。



30

ニコニコボックス

7月15日

牛山幸一・梅垣和彦・大橋正明・笠原祥一・坂井忠彦・佐藤有司・白鳥修次・竹村一幸・塚田昌滋・濱 透・濱 俊弘・林 尚孝・林 裕彦・林 靖高・原 史郎・藤森睦美・宮坂宥洪・宮坂宥澄・宮沢由己・矢崎宏明・矢島 實・山岡正邦・山岸邦太郎・北澤洋之介 早朝例会、ご苦労様です。

7月22日

井上保子・太田博久・大橋正明・佐藤有司・中嶋孝一・林 靖高・宮坂宥澄・宮沢由己・矢崎宏明・矢島 進・山岡晴男・山岡正邦・山崎典夫 橋本様の卓話楽しみです。
梅垣和彦・大橋正明・小口哲男・小口泰史・尾関秀雄・小野 仁・笠原祥一・高木昭好・竹村一幸・濱 俊弘・山岸邦太郎 梅雨が明けました。本格的な夏です。
林 裕彦・牛山幸一・小口成人 写真を頂きありがとうございました。
矢島 進 創業月です。

出席報告

7/15 会員数51名、出席者41名、出席率80.39%、前々回訂正75.00%
7/22 会員数51名、出席者38名、出席率74.51%、前々回訂正88.24%

2008-2009年度R Iテーマ
夢をかたちに
Make Dreams Real

